

第1章 調査の概要

第1節 調査の目的

1 緒方盆地と周辺地域の地理的環境

豊後大野市は、大分県の南西部に位置し、県下最大の河川大野川の上・中流域を行政区域とする。本市は、平成17年3月31日に三重町・清川村・緒方町・朝地町・大野町・千歳村・犬飼町が合併し発足した。市域は、東西約22km、南北約31kmで、総面積は603.36km²となり、その面積は県土の約9.5%を占める。祖母山南西部を源流とする大野川が市域西部から東部へと流れ、市内犬飼町付近から流れを北東に変え、別府湾に注いでいる。大野川には、緒方川・奥岳川・平井川・茜川などの支流が流入し、各地に河岸段丘を形成している。

豊後大野市のうち緒方町域の南部地域は、宮崎県高千穂町と境界を接し、九州の屋根といわれる祖母・傾山系がそびえ、豊富な原生林が奥岳川の清流を育てている。また北部地域には、祖母山を源流とする大野川支流緒方川が流れ、「緒方盆地」が形成されている。この緒方盆地は、緒方川により形成された段丘で、古代から水路網の開鑿が進められてきた。江戸期には豊後岡藩の優良な穀倉地帯であり、藩主による「御覧田植」がしばしば行われた。緒方盆地を取り囲む丘陵地帯は、明治以降の長距離水路開発により棚田が形成され、大正3年以降、富士緒井路通水により棚田が拡大した軸丸地域は、平成11年に日本棚田百選に選定されている。このように、古代から現在まで稲作が営まれる緒方盆地と周辺地域は、現在でも市内最大の水田面積を誇っている。

2 調査に至る経緯と調査の目的

緒方町上自在の集落景観が平成3年度に「美しい日本のむら百選」に選定、平成11年度に軸丸棚田が「日本棚田百選」に選定、平成17年度に緒方盆地を潤す緒方上井路・下井路が「日本疏水百選」に選定された。いずれも名誉なことではあるが、調査研究を経て選定されたものではない。

緒方盆地とその周辺地域は、別府大学飯沼賢司教授により調査研究が行われ、平成17年に『環境歴史的視点に立つ中世荘園研究 ―大分県直入・大野地域を中心に―』が報告された。この中で、緒方盆地の井路開発史と井路にまつわる祭礼行事、河川からの取水の具体的な仕組み、緒方盆地と北部に位置する軸丸棚田の圃場の関係などが明らかにされた。

緒方町は平成17年に近隣町村と合併し豊後大野市となった。新たな自治体として「豊後大野とはどのような地域なのか？」ということが問われる中、「自然や歴史遺産を学び、それを守り、地域の活性化をめざす」というジオパーク活動を開始した。ジオパーク活動は科学的な根拠を持ちながら行うことが求められており、認定審査の指摘の中で緒方町域の井路について、調査研究を進めその価値を広く市民に還元すべきとの助言を受けた。平成25年に日本ジオパークネットワークの加盟が認められ、平成27年から豊後大野市全域を対象に文化的景観の調査研究を開始した。調査研究にあたっては、文化庁・大分県文化課の助言・指導を受け、緒方盆地と井路群に関して先行研究を行っていた別府大学飯沼賢司教授を中心に調査委員会を組織した。平成29年度の調査研究委員会で、選定対象地を緒方盆地とその周辺地域に絞る方針が示され、この地域が文化財保護法第2条に定める「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景

観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことができないもの」であるか明らかにするため、自然・歴史環境、社会的環境の調査を実施した。

第2節 調査の体制

1 調査の体制

文化的景観の調査は、大野川流域の文化的景観調査委員会を組織し実施した。調査事務は豊後大野市教育委員会が行った。調査内容が多岐に及ぶため、調査の内容ごとに別府大学（文化財研究所）・大分大学・熊本大学ほか、コンサルタント会社・測量会社に委託し実施した。調査体制は以下のとおりである。

※市教委は事業開始の平成27年度以降異動が多いため、教育長・課長は令和2年度時点、文化財係は平成27年度から令和2年度時点の担当者名である。

1) 調査主体者	豊後大野市教育委員会		
2) 調査体制	大野川流域の文化的景観調査委員会		
調査委員	別府大学学長	飯沼 賢司	
	別府大学文学部教授	段上 達雄	
	別府大学文学部教授	下村 智	
	識見者（元京都大学大学院教授）	竹村 惠二	
	熊本大学工学部教授	伊東 龍一	
	識見者（元大分県立歴史博物館長）	渋谷 忠章	
	識見者（大分大学非常勤講師）	吉永 浩二	
	大分大学理工学部助教	姫野 由香	
	大分県教育委員会文化課参事（総括）	三重野 誠	
調査指導	文化庁文化財第二課文化的景観部門	下間 久美子	
	〃	永井 ふみ	
	〃	市原 富士夫	
	大分県文化課	山路 康弘	
	〃	手嶋 義文	
	〃	佐々木 直	
調査員・事務	豊後大野市教育委員会		
	教育長	下田 博	(H29-R02)
	社会教育課課長	佐藤 精華	(R02)
	社会教育課（文化財係）	高野 弘之	(H27-R02)
	〃	諸岡 郁	(H27-R02)
	〃	豊田 徹士	(H27-R01)
	〃	安部 一真	(H30-R01)
	〃	毛利 篤史	(R02)
	〃	神志那 庸一	(R01-R02)
	〃	長屋 佳歩	(R02)
	商工観光課（ジオパーク専門員）	吉岡 敏和	(H29-R02)
	〃（エコパーク担当）	岩里 実季	(H29-R01)
	建設課課長（景観計画担当部署）	玉ノ井 浩司	(H27-R02)
	〃 都市計画建設係長	佐藤 康弘	(H27-R02)
	〃 都市計画建設係副主幹	桑原 一善	(H27-R02)

第3節 調査の範囲

1 文化的景観選定予定地の調査範囲の設定

文化的景観選定予定地の調査範囲の設定は、対象地域における水利用、特に灌漑体系を基本に設定した。井路による緒方川左岸の灌漑は、緒方上井路・緒方下井路が基軸であり、右岸の灌漑は原尻新井路・原尻古井路・三区（野仲）井路が基軸である。それぞれの井路の取水口と最末流地点を基本に置いて、それに関連する地域を選定予定範囲とした。関連する地域とは、原尻古井路取水口がある上年野地域、緒方上井路取水口がある辻地域と、辻地域を潤す長淵井路が通る小宛牧原地域、緒方下井路に水を供給する黒土甲川流域の草深野の一部地域、緒方下井路に水を供給する軸丸川流域の軸丸地域全体とした。

井路群が潤す緒方川右岸・左岸の低地は、盆地状の地形を成しており、地元では、狭小な谷、迫地形が多い中で、割合広い盆地的谷地形を形成しているところから、誇張して「緒方平野」とも呼んでいるが、ここでは「緒方盆地」という呼称を使用する。特に灌漑用水の供給源となって

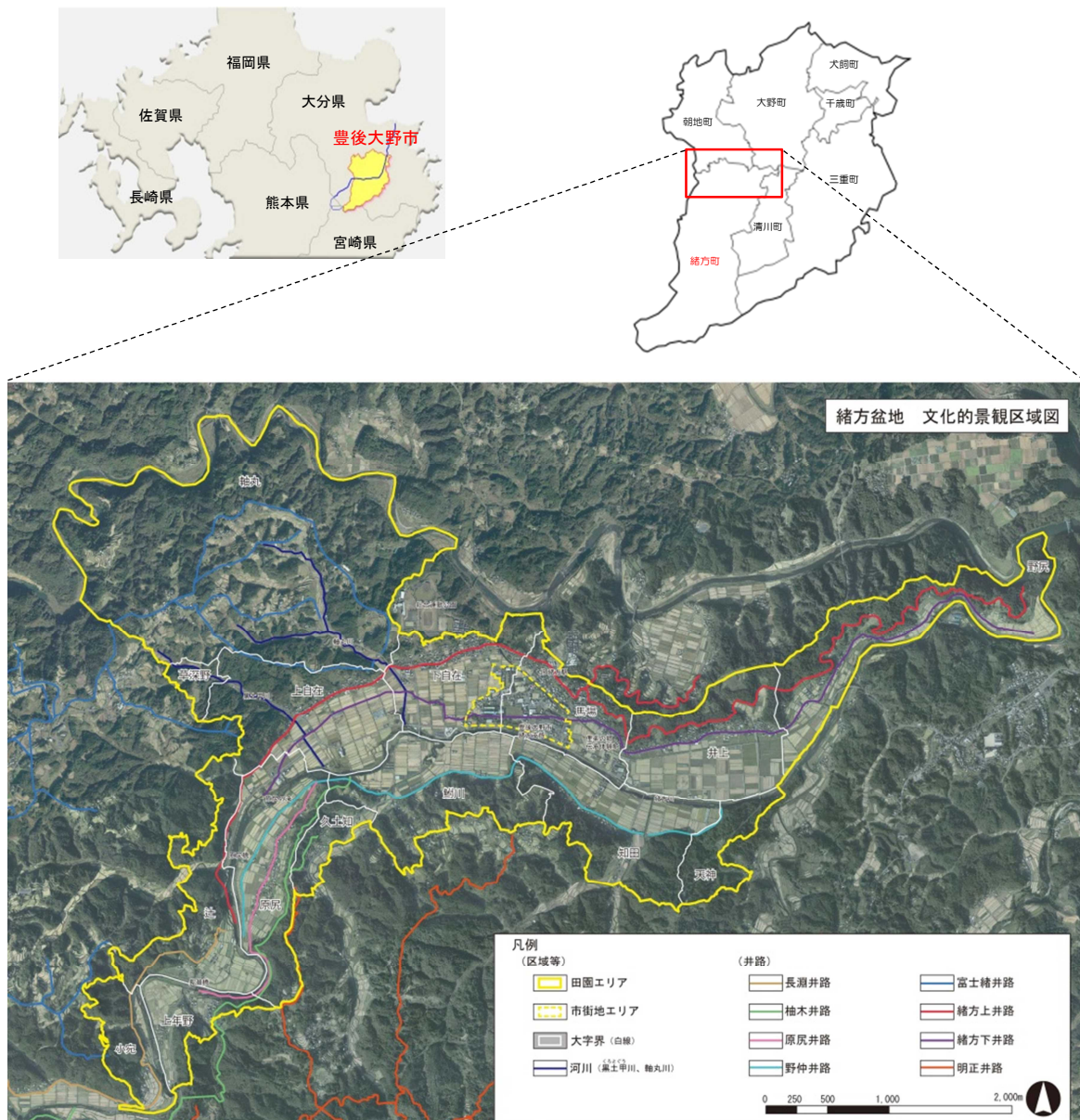


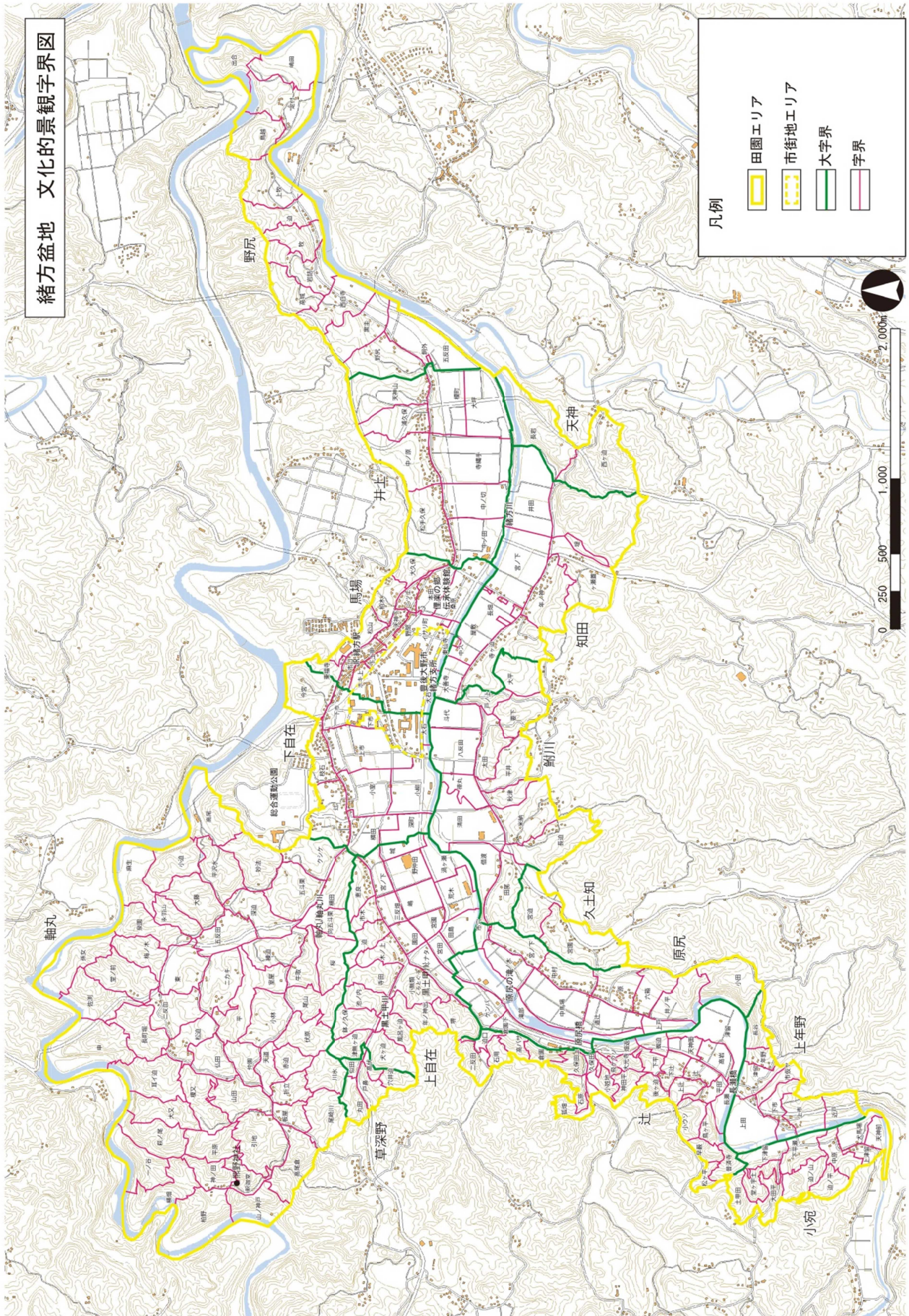
図1 文化的景観選定予定範囲である「緒方盆地」

いる軸丸川の流れる軸丸地域、黒土甲川の流れる草深野地域の一部は「緒方盆地」と水利の面、地形的な面で一体的にとらえる必要がある。加えて、緒方を代表する伝統的な祭礼である「緒方五千石祭」は、盆地の中心部の地区と軸丸地域の人々により催され、農耕民俗文化の面、歴史的な面においても一体的な地域として捉えられる。以上のことから、文化的景観選定範囲の呼称は、軸丸、草深野の一部を含めて、「緒方盆地」という呼称を使用することにする。

なお、選定予定区域の境界は、字境界を基本とし、「緒方盆地」を取り囲む丘陵地帯の稜線を含む範囲とした（図1、2）。選定対象予定地の大字名・小字名は、表1のとおりである。

表1 選定対象予定地の大字名・小字名

番号	大字名	小字名	番号	大字名	小字名	番号	大字名	小字名	番号	大字名	小字名
1	1 上年野	上田	61	5 軸丸	赤迫	121	6 上自在	恵良	181	10 野尻	定付
2		下市	62		天道	122		市木	182		嶋田
3		上市	63		折立	123		迫	183		出合
4		近戸	64		川木	124		木ノ上	184	小田	
5		市仮ヤ	65		尾崎川	125		寺田	185	井ノ平	
6		津留	66		板屋	126		池ノ内	186	六箱	
7		年野	67		高尾倉	127		鉢ノ久保	187	原	
8		長谷	68		山ノ神戸	128		津無ケ迫	188	中村	
9	2 小宛	天神前	69		柏野	129		犬ケ迫	189	宮ノ下	
10		犬馬場	70		横畑	130		風呂ケ迫	190	市穴	
11		上津留	71		一ノ谷	131		小無類	191	星ノ木	
12		中原	72		神ノ田	132		年ノ神出	192	中馬場	
13		迫ノ平	73		釈迦堂	133	堺	193	道辻		
14		大田平	74		引地	134	深町	194	上戸		
15		迫ノ山	75		平原	135	小柳	195	倉園下		
16		下平瀬	76		萩ノ尾	136	大石	196	ケンバ		
17		堂ケ字土	77		大又	137	下市	197	滝部		
18		下津留	78		山田	138	上市	198	宮迫		
19	土甲田	79	榎又	139	小室	199	宮園				
20	3 草深野	丸田	80	耳ノ迫	140	横田	200	借渡			
21		穴井迫	81	申	141	辻	201	清田			
22		戸鼻	82	長町堀	142	枝石	202	田尾			
23		高伏	83	佐瀨	143	今宮	203	長迫			
24		似田	84	孫女	144	大石	204	米納			
25		津留	85	堂ノ前	145	寺田	205	徳丸			
26		天神面	86	梅ノ木	146	カモウ	206	八反田			
27		高岩	87	泉園	147	下土甲	207	斗代			
28		辻	88	永羽山	148	ホキ上	208	戸ノ上			
29		下辻	89	大藤	149	市口	209	大平			
30	上辻	90	麻生	150	天神下	210	要下				
31	4 辻	平田	91	小迫	151	野間	211	太田			
32		長瀬	92	高尾	152	イサリ町	212	平井			
33		鳥ケ平	93	平沢水	153	東仙寺	213	秋津			
34		小ウソ	94	妙法	154	桑原	214	大善寺			
35		早藪	95	クシケ	155	本田	215	中ス			
36		普ノ齊寺	96	五斗栗	156	ミツエ	216	屋敷			
37		松ケ平	97	深迫	157	大久保	217	長畑			
38		後ケ迫	98	五反田	158	柏木	218	宮ノ下			
39		神田平	99	東	159	松山	219	井田			
40		小性地	100	二反田	160	東福寺	220	堤			
41	飛ケウソ	101	松迫	161	牛ノ田	221	ケ瀬蓋				
42	大光寺	102	仏田	162	中ノ切	222	年ノ神				
43	下平	103	ニカキ	163	寺縄手	223	寺ケ迫				
44	畑返	104	平	164	大坪	224	西ケ迫				
45	畑迫	105	仲園	165	榎町	225	長岩				
46	久保田	106	小林	166	天神山						
47	狐畑	107	室屋	167	浦久保						
48	石原	108	練迫	168	中ノ原						
49	久保田上	109	ヒナタ	169	松手久保						
50	倉園	110	宮田	170	飼外						
51	高バサ	111	田嶋	171	五反田						
52	石用	112	宮園	172	野尻						
53	二反田	113	園田	173	黒主						
54	迫口	114	三反畑	174	西白寺						
55	横田	115	嶋	175	高城						
56	向五斗栗	116	荒木	176	岩詰						
57	桜	117	溝ケ瀬	177	牧						
58	牛取	118	城	178	迫						
59	尾山	119	野仲田	179	上牧						
60	伏原	120	宮ノ下	180	鳥越						



緒方盆地 文化的景観字界図

図2 選定対象予定地の大字・小字位置図